

能登半島地震被災地における訪問入浴車による入浴支援活動

日本在宅介護協会では、石川県および厚生労働省からの要請を受けて、令和6年能登半島地震の被災地に訪問入浴車を派遣して、お風呂に入れない要介護高齢者・障がい者の方々の入浴支援活動を行っています。この活動は、2004年中越地震、2011年東日本大震災、2016年熊本地震など、大規模自然災害が発生する度に行っています。

今回は、一般社団法人「民間事業者の質を高める」全国介護事業者協議会（略称：民介協）と協力して活動しています。

●入浴支援活動



▲被災した特養の浴室にお風呂を設置



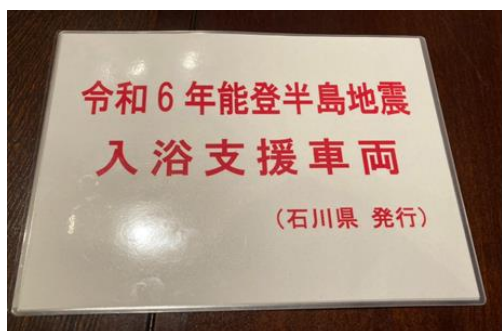
▲養護老人ホームの居室内で入居者・避難者向けに入浴支援



▲福祉避難所での入浴支援



▲避難所の様子



▲県より発行された通行証をダッシュボードに置いて活動



◀活動メンバーが着用するビブス

被災地では様々な団体が入り乱れて活動しているので、一目で役割と職務が分かることが重要です

● 自前の給水車による水の確保

被災地では断水が続き、入浴のための水が確保できないため、専用の給水車を確保して活動しています。
民介協の座小田理事長が社長を務める(株)シダー所有の車両であり、今回の活動の為に1台を提供してくれています。



◀ 能登町の浄水場で給水車に給水

輪島市と能登町の浄水場での給水許可をもらい、活動の合間に水を調達しています。
給水車のタンク容量は4000リットルありますが、10分も掛からず満タンにできます。

給水車から訪問入浴車に水を供給▶

奥に見える給水車から、手前にある訪問入浴車のタンクに水を送り続けています。



● 活動チームのベースキャンプ

長期的な活動にも耐えられるよう、今回のチームメンバーの宿舎となるベースキャンプを能登島に構えています。
休業中だったゲストハウスを借り、最大8人まで泊まれる体制を確保しています。上下水道が機能しており、水洗トイレもあってシャワーも浴びられます。

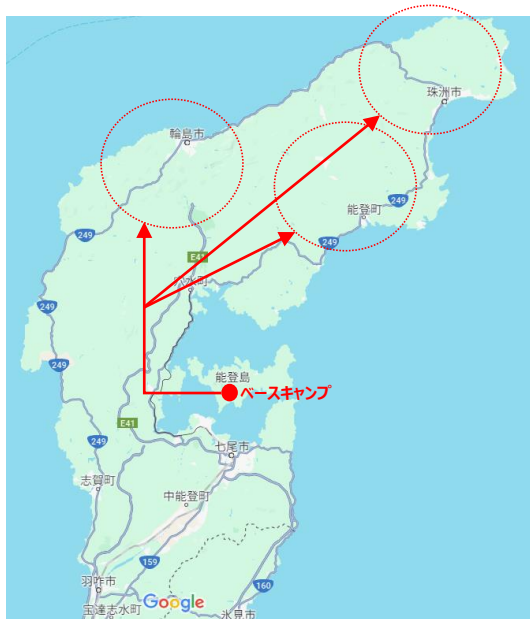


◀ 能登町ゲストハウスうたたね

<https://utatane-notojima.com/>

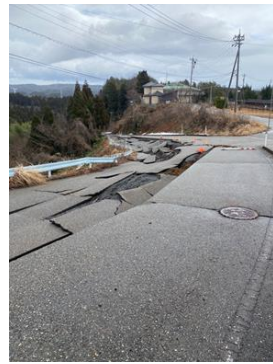


●活動エリア



能登島のベースキャンプを拠点に、特に被害の大きかった、**輪島市・能登町・珠洲市**を中心に
入浴支援活動を行っています。

▼震災の爪痕



●NHKニュース

我々の活動が2/14のNHKニュースで取り上げられました。
以下URLより動画でご視聴いただけます。



<https://www3.nhk.or.jp/lnews/kanazawa/20240214/3020019039.html>

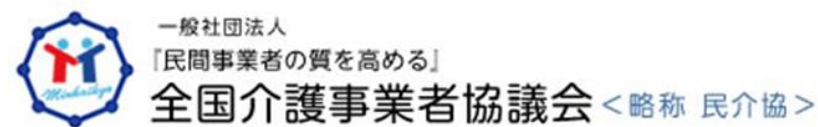
さいごに…



能登町役場に掲げられた、
能登高校書道部の作品です

被災地の声を代弁する高校生の想いに
復興への光は確実に見えています
我々は介護の業界団体として、
できる限りの支援を継続してまいります

令和6年能登半島地震 入浴支援活動報告



活動実績

活動期間

2024年2月5日～3月31日（56日間）

参加企業数

17 社（社名一覧はスライド5）

派遣職員数

延べ 62 人

派遣入浴車数

延べ 17 台

入浴者数

延べ 1,060 人

タイムライン

- 1/24** 厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課より入浴支援の依頼状受領
同日、在宅協と民介協合同で入浴支援を決定
- 1/29-31** 在宅協の先遣隊が被災地入りし現地調査
- 1/31** 現地調査結果をもとに、在宅協・民介協合同ミーティング実施
- 2/2** 石川県 健康福祉部 長寿社会課より入浴支援の依頼状受領
- 2/4** 支援第一陣（給水車1台、訪問入浴車両2台）が現地入り
- 2/5～** 奥能登で入浴支援活動開始（「奥能登チーム」）
- 2/17～** 1.5次避難所「いしかわ総合スポーツセンター」で入浴支援活動開始（「スポセンチーム」）
- 3/31** 応急期対応終結による入浴支援活動終了

- 4/1～** いしかわ総合スポーツセンターに浴槽とホースを貸与し、避難所介護職員による入浴継続を側面支援

活動内容

①「奥能登チーム」

断水エリアでの活動の為、訪問入浴車と給水車のセットで活動。被災を免れた浄水場で給水車に水をもらい、現場で給水車から入浴車に水を供給して入浴実施。



▲浄水場で(株)シダー所有の給水車に水を補給



▲奥に見える給水車から手前の入浴車に給水



▲施設の空き居室で入浴実施



▲避難所では入浴スペースを設置

②「スポセンチーム」

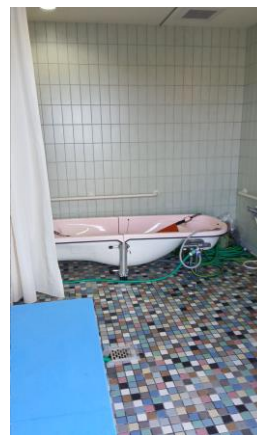
金沢市にある1.5次避難所「いしかわ総合スポーツセンター」での入浴支援。シャワー栓から給湯できるため、浴槽に直接お湯をはって入浴実施。



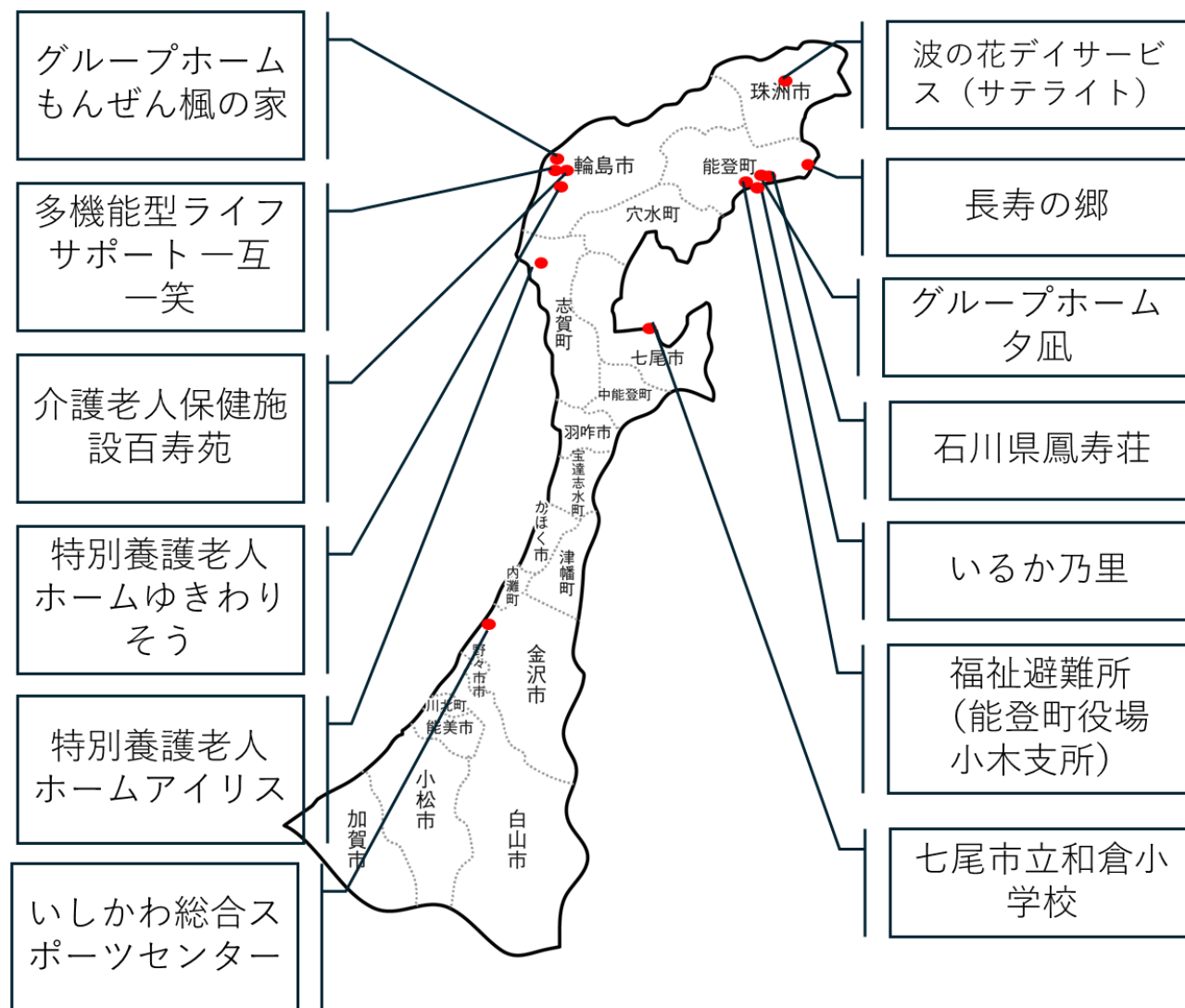
▲1.5次避難所入口



▲シャワー室の中に浴槽を常設し、シャワー栓にホースを接続して直接給湯



▲スポセンには入浴車1台を常設



延べ13ヶ所で入浴支援

輪島市… 4ヶ所
珠洲市… 1ヶ所
能登町… 5ヶ所
志賀町… 1ヶ所
七尾市… 1ヶ所
金沢市… 1ヶ所

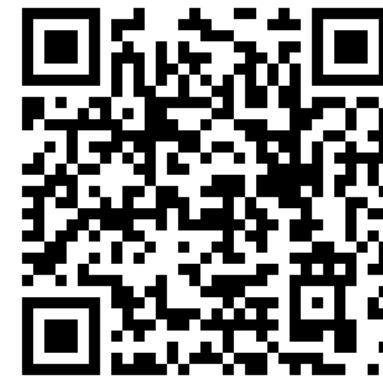
- 各市役所・町役場を訪問し、支援ニーズのある福祉施設・避難所等を聞き出して訪問先を開拓。
- 珠洲市・輪島市エリアは多くの要介護者が1.5次避難所または2次避難所に退避していた。

- 01.アースサポート株式会社（東京都）
- 02.株式会社ニチイ学館（東京都）
- 03.株式会社デベロ（茨城県）
- 04.株式会社アイケア（静岡県）
- 05.コウダイケアサービス株式会社（兵庫県）
- 06.セントケア・ホールディング株式会社（東京都）
 - セントケア東京(株)（東京都）
 - セントケア神奈川(株)（神奈川県）
 - セントケア千葉(株)（千葉県）
 - セントケア中部(株)（愛知県）
 - (株)福祉の街（埼玉県）
 - (株)福祉の里（愛知県）
- 07.エルケア株式会社（大阪府）
- 08.株式会社エルフィス（鳥取県）
- 09.株式会社愛和（東京都）
- 10.株式会社カラース（東京都）
- 11.株式会社シダー（福岡県）
- 12.株式会社つくばエデュース（茨城県）
- 13.株式会社ライフサービス（愛知県）
- 14.ぱんぷきん株式会社（宮城県）
- 15.株式会社ラ・ケア（京都府）
- 16.イツモスマイル株式会社（徳島県）
- 17.株式会社来夢（東京都）

●NHKニュース（令和6年2月14日放映）



▼動画はこちらから



▼またはURLから

<https://www3.nhk.or.jp/news/kanazawa/20240214/3020019039.html>

●シルバー新報（令和6年2月23日号）

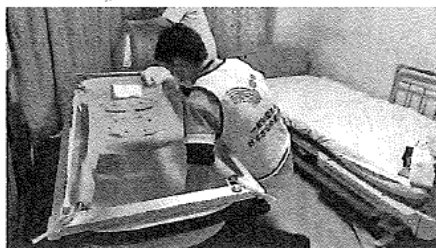
日本在宅介護協会（新宿区、森信介会長）は石川県と厚生労働省の要請を受けて、能登半島で被災した輪島市、能登町、珠洲市に訪問入浴車を派遣。避難所や被災した施設で、高齢者・障害者の入浴支援を行っている。

同協会では中越地震、東日本大震災、熊本地震など、震災のたびに現地に救援隊を派遣している。

今回は「民間事業者の質を

被災地で入浴支援

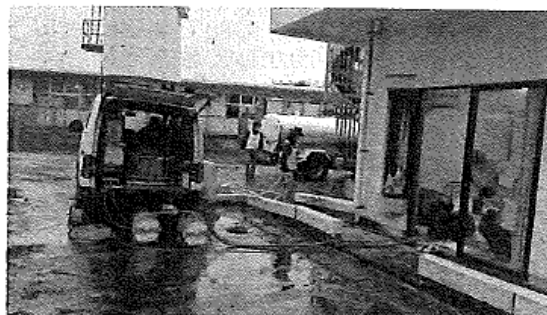
在宅協 訪問入浴車の派遣も



高める」全国介護事業者協議会（千代田区、座小田孝安理事長）と協力して活動。断水している地域では、座小田理事長が所有する給水車で水を輸送し、訪問入浴者に給水している。

救援隊は長期の活動が続けられるように、ゲストハウス「うたたね」を借り、能登島にベースキャンプを設置。最大8人が泊まれる体制を確保している。

●シルバー産業新聞（令和6年4月10日号）



訪問入浴車と給水車で被災施設などをまわっている

日本在宅介護協会（在宅協、森信介会長）と「民間事業者の質を高める」全国介護事業者協議会（民介協、座小田孝安理事長）は、能登半島地震の被災地で、長期間におよぶ断水や貯水槽・ボイラーなどの設備が損傷した施設や避難所などへ、訪問入浴車を派遣し、高齢者や障がい者の入浴を支援している。

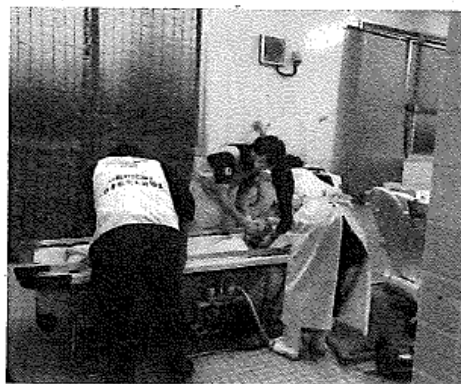
現地では断水が続いているため、自治体から浄水場での給水許可を得て、会員から提供を受けた給水車に

在宅協、民介協

能登半島地震

断水続く被災地で訪問入浴支援活動

必要な水を確保。ボイラーや浴槽を積んだ訪問入浴車とともに被災施設をまわっている。実際に支援を行う人員は両団体の会員事業所の職員から募った。能登島（のとじま）に拠点を置き、特に被害が甚大だった輪島市・能登町・珠洲市を中心に活動。中には1カ月入浴できなかった人などもおり、被災施設からも「とても助かっている」との声が寄せられた。3月28日時点で、延べ993人の入浴を支援した。



断水や設備損傷の影響で入浴できない要介護者も少なくない

● 高齢者住宅新聞（令和6年4月24日号）

在宅協

被災施設で訪問入浴

17社が参加 延べ1000名超支援

2024年元月、起きた能登半島地震から4カ月が経ち、被災地の状況は、水害などのライフラインがまだ復旧してない。一方、路面整備が進み、物流も回復しつつある。被災地には多くの福祉・医療団体、関係者が支援活動に訪れた。一般社団法人日本在宅介護協会（東京都新宿区）以下、在宅協）もその一つだ。同協会は、月初旬から3月末まで被災地の福祉施設や避難所へ入浴支援を行った。支援最終日の3月31日、本紙記者が活動に同行した。



この活動は、在宅協が一般社団法人全国介護事業者協議会（同千代田区）以下、民介協）と共同で実施。在宅協は、17社の職員延べ1000名を派遣した。被災地の福祉施設を給水車と訪問入浴車が回り、入浴支援活動を行った。支援に入ったのは、輪島市、能登町、珠洲市など、半島北東部に所在するおよそ13施設。各自治体役場がハブとなり、

地形的に細長く、北東部は山岳地帯である能登半島。金沢市から能登町まで、自動車専用道路「のと里山街道」を使い、車で約2時間半ほど移動した。とてつもない、道路の崩落、土砂崩れなどが見られたが、3月31日時点では路面の舗装や通車可能な状態に回復していた。支援を始めたばかりの2月初旬は、



▲在宅協のスタッフと支援先の職員が連携して介助にあたる



▲道路の整備工事が進む



▲地盤沈下で建物が浮き上がる（石川県鳳凰荘）

工事進捗が速まり、物資を積んだトラックや給水車などで洗剤を運搬していた」と在宅協の佐々木隆之事務局長は話す。

同協会の支援活動は取材に同行した3月31日が最終日。最後に入浴支援を行った施設は、社会福祉法人石川県社会福祉事業団が運営する「石川県鳳凰荘」だ。特別養護老人ホームと看護老人ホームなどを併設した複合型施設で、在宅協は看護老人ホームの入居者の入浴支援を行っていた。能登町市街地より坂道を上った高台にある同施設。上りの道路は車が通れるよう整備されていたものの、大きく崩れ

た跡が残る。施設の敷地には地震でも揺られ、施設が傾きかかっている箇所もある。被災時、特別養護の入居者は84名、看護老人ホームの入居者は4名。現時点で退所者はほとんどいない。職員も最初の3日間は避難所から通勤するも、現在はほとんどの職員が通達通りの勤務できているという。

「被災当初、スプリンクラーの誤作動で一部の居室が水浸しになった。手相の事故が起きた。避難所は一時混乱した」と紙谷達也施設長。被災後数日かけて全入居者を1ヵ所に集め、備蓄していた緊急補助食品などで1日2回の食事を提供した。物資が回復した現在

でも被災し、湯が使えない。鳳凰荘の看護老人ホームでは、被災後から約1月間、入居者が入浴できなかったのが続いた。在宅協の支援が入ったことになり、看護老人ホームの職員は安堵している。施設の1階に湯の給湯器を設置し、在宅協のスタッフが1人1人を入浴介助した。1日10〜20名の入浴支援を受けた。入居者らは連日1度のペースで給湯機を使い、全身を洗った。入浴介助にあっていた鳳凰荘のスタッフは、当初の喜びを語った。「入居者は本当に喜ぶ。お風呂に入れた。これまでも清潔に行っていたが、多少の汚れは我慢

未だ500戸で断水続く 1カ月ぶり入浴に涙も

はる真、メニューに制限がありながらも調理した食事を提供している。しかし、水は被災前同様使用できる状況にない。

水道管や受水槽の破損で、特設の一部を除いては水を施設内に引き渡せることが難しいのだという。またボイ

た福祉施設を訪ねて、金沢市の「いかり蔵自衛隊センター」内の150名収容スペースでも入浴支援を行った。150名収容スペースは、仮設住宅や多世帯住宅、福祉施設などに入浴支援を行った。



石川県鳳凰荘 紙谷達也施設長

「いかに迅速に判断するかをシミュレーションできるような訓練を普段からしておく必要があるだろう」とい。今回の経験を机上訓練や実地訓練などに活かしていく考えだ。

訪問入浴というサービスは、「入浴」という生活の一部を支えるサービスが、被災地では大きな課題となっている。しかし「入浴できない」というのは、本人のQOLを著しく下げます。全県から集結したボランティアが被災地へ入浴支援を始めてから、介護職は、介護職の負担を減らすことが、多職種連携や全県状態の観察など、訪問入浴を集約されたスキルを再認識した。

どうなの？BCP対策
鳳凰荘ではBCPを策定済みだった。あらかじめ備蓄の場所や被災時の参集ルール、役割分担なども決めていたという。「心構えができるという点では良かった」と川尻史史支援長。一方で、被災直後に利用者の安全性を守るための動きや、避難誘導などでは実際の被害状況に応じた現場判断が必要。『いかに迅速に判断するかをシミュレーションできるような訓練を普段からしておく必要があるだろう』とい。今回の経験を机上訓練や実地訓練などに活かしていく考えだ。

参加メンバーの日報から

先々週より入浴拒否をし続けていた女性が、最後の入浴の日に、なんとか入浴をして頂きたいと交渉をし始めるも、やっとお風呂に来てもらえないと部屋に戻ることに3回。4回目にお風呂場まで連れてくる時に丁度、輪島のお祭りの時に吹く笛を避難されていた方が吹いてくださっていました。笛の音につられてなんとか入浴。初めは足湯から、次にズボンを脱いで下だけ洗い、私が知っているだけでも2週間ぶりに入浴されました。その方は、以前は普通に入浴されていた方です。環境の変化により、こんなにも変化してしまうのか？そのような中でも故郷の笛の音は忘れず、穏やかに戻り入浴をする気持ちになった姿を見て介護の深さを感じました。

移動距離が長くハードな一日でしたが、皆さんの「ありがとう」「さっぱりしたよ」のお言葉に支えられたと思います。

利用者様もリラックスしてご入浴頂き、能登の皆様の優しさに感謝致します。私自身、阪神大震災で避難所経験をしました。あの当時と比べると環境はだいぶ改善されましたが、あの時入った自衛隊のお風呂は今でも忘れることはありません。今回、微力ながらその恩返しの機会を頂きありがとうございました。

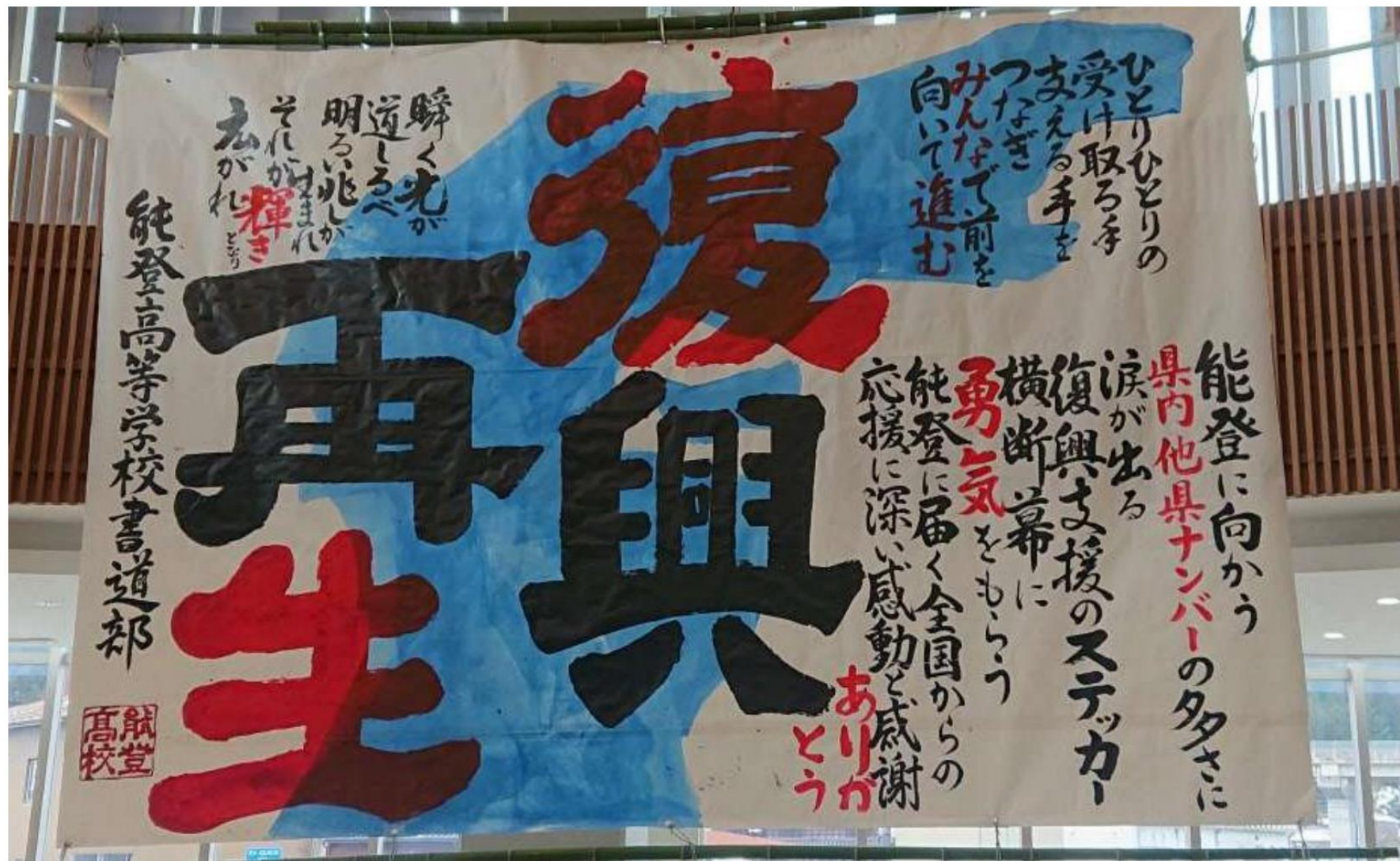
皆さんに感謝され、施設の方からも感謝され、支援に来てよかったと思う瞬間でした。たくさんの人と出会い、体験できたことは人生の糧になると思います。ありがとうございました。

入浴支援中、「自分の家は良かったけど周りの家は傾いて、何が何だかわからなくなった」とおっしゃる方、「ここでは中々寝れなくて眠剤飲んで寝ています」と話される方が見えました。でも、湯船に入られると目を閉じられ、穏やかなご様子でリラックスされ「ごらくごらく」とおっしゃっていました。翌日にお会いすると手を振ってくださる方、「昨日お風呂入れてくださってありがとう」と挨拶される方が見えました。このような経験は、度々あるものではありませんが、4日間の体験を今後の自分の糧にして生かしていければと思います。

今日の利用者さんの一言

入浴中に、本当に有難い有難いと何度も言いながら、悲しくて涙が出るものかと思っていたら、嬉しくても涙出るものなのね、、、とお風呂の中で手を合わせて感謝の言葉を言いながら涙を流されていました。これは心の汗でもあるのでたくさん流してスッキリしましょう！とお伝えして私も心の汗をたくさんかきました。

このような場を与えてくださった石川県の職員の方をはじめ、支援に携わるすべての方々のご尽力に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。
支援した方々の繋いだボタンは素晴らしいチームワークで最後まで繋がった印が入浴された方々の笑顔ですね！
これからも笑顔を忘れずに日々精進してまいります。本当に本当にありがとうございました。



能登町役場1階エントランスに掲示